

昭 20											年	月	日	才一二六師団司令部略歴							
8	8	8	8	8	8	8	8	6	3	1					略	歴	摘	要			
26	19	15	14	12	11	10	9	6	10	16											
<p>軍令陸甲第九号により編成下令。 第二五師団等転用部隊の残置者。その他在満各部隊よりの転属者を基幹とし、 東安省鶏寧県平陽において編成完結。 師団長以下主力は、平陽より穆稜県自興屯に移駐。 平陽には一部が残留、電報班の教育ならびに残留業務を実施。 日「ソ」開戦。 自興屯付近において陣地構築。 第五軍司令官の命令により、牡丹江省掖河に転進のため出発。 掖河到着。 平陽残留隊は八月九日同地を出発。愛河において主力に合流。 愛河において「ソ」軍機動部隊と戦闘。 掖河。海林を経て横道河子に転進。 大部分は横道河子において武装解除。 拉古第四作業大隊に編入。</p>																					

2264

36102

	9 9
	3 1
	綏芬河經由入「ソ」。 「ウオロシロフ」に入所。 師団長 中将 野 溝 式 彦

2265

昭 20											年	月	日	歩 兵 才 二 七 七 連 隊 略 歴	
10	9	8	8	8	8	8	8	6	3	3					1
10	19	29	18	15	12	10	9		末	10	16				
<p>通称号 満第八八部隊 英断第一五二五三部隊</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令。 第三国境守備隊を基幹として、東安省、半截河において編成完結。 主力は牡丹江省穆稜県八面通に移駐。 一部を半截河に残置。 連隊主力は穆稜県下城子西方扛河溝付近に陣地構築。 日「ソ」開戦。 扛河溝陣地を出発。牡丹江東方に行動。 寧安県掖河四五八高地（三角山）を占領。八月十四日、十五日の間戦闘。 牡丹江より安城屯に転進途中、八月十六日「ソ」軍の攻撃を受け、各中隊分散 状態となり横道河子方面に後退。 横道河子において武装解除。 海林第一三一作業大隊に編入。 綏芬河經由入「ソ」。 「タイシエット」収に入所。</p>															

2266

	昭
	20
	8 8
	10 9
<p>八面通残留隊の行動 主力に合流のため八面通出發。 八面通東方（三峰山）に移動。同地において「ソ」軍の攻撃を受けて同地を撤退し、下城子、自興屯、掖河を経て牡丹江に向かう途中主力と合流。</p> <p>連隊長 大佐 山本義雄</p>	

至 自		昭 20	年	歩 兵 才 二 七 八 連 隊 略 歴
		月	日	
8	8 8	8 8 8	6 3 1	
16	15 13	12 10 9	10 16	略 歴
<p>後退途中「ソ」軍の包囲をうけ連隊長以下多数の戦死者を出した。</p> <p>掖河陣地において優勢な「ソ」軍と交戦。損耗多く苦戦を続け陣地を後退。</p> <p>において主力に合流。</p> <p>半截河派遣隊及平陽残留隊は開戦とともに各々駐屯地を出発。八月十二日掖河</p> <p>樺林を経て掖河に到着。</p> <p>主力は大礮子陣地出発。</p> <p>日「ソ」開戦。</p> <p>一部は東安省半截河に派遣し、国境警備に従事。</p> <p>構築作業。</p> <p>一部を平陽に残置し主力は牡丹江省穆稜県八面通西方大礮山付近において陣地</p>		<p>軍令陸甲第九号により編成下令。</p> <p>第一二国境守備隊を基幹とし、第一一師団の内地転用の残置者および在満各部</p> <p>隊の転属者をもつて、東安省鶏寧県平陽において編成完結。</p>		略
				摘要

	9	9	9	10	10	9
	29	13	7	19	11	9
<p>脱出者の大部分は、横道河子において一部は林口、寧安、東京城、敦化等において武装解除。</p> <p>主力は海林第一三二作業大隊に編入。</p> <p>綏芬河経由入「ソ」。</p> <p>「タイシエフト」収に入所。</p> <p>一部は拉古第二六作業大隊に編入。</p> <p>綏芬河経由入「ソ」。</p> <p>「アルチヨム」収入所。</p> <p>その他分散行動したものは十数ヶ所に入所した。</p> <p>連隊長</p> <p>大佐 山中 肇</p>						

	10
	20
	「タイシエツト」収入所。 連隊長 大佐 菊地 永雄

昭 20										年 月 日	才 一 二 六 師 団 挺 進 大 隊 略 歴	
至 自												略
8	8	8	8	8	8	8	同	7	7			
26	18	15	13	13	10	9	日	31	10	日	略	
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 東安省鶏寧県平陽において編成着手。 第一二六師団各部隊の転属者をもつて編成完結。 牡丹江省穆稜県八面通に移駐。 日「ソ」開戦。 主力は八面通出発。穆稜県自興屯、寧安県五家林を経て八月十二日樺林着。 一部は同日下城子より穆稜街道を掖河に転進。 「ソ」軍戦車の攻撃を受け、大隊長以下多数の戦死、生死不明者を出し、掖河陣地に向かう。 掖河陣地において「ソ」軍機動部隊と交戦、多数の戦死戦傷者を出した。 拉古、海林を経て横道河子着。 同地において武装解除。 拉古第四作業大隊に編入。</p>												歴
												摘要

2272

11 9

1 1

綏芬河經由入「ソ」。
「ウオロシロフ」取に入所。

大隊長

大尉 近藤 豊

昭 20					昭 20					年 月 日	野 砲 兵 才 一 二 六 連 隊 略 歴
8	8	8	8	8	7	3	3	3	1		
17	15	14	13	10	10	28	25	10	16	略 歴	通称号 満第七九五部隊 英断第一五二五四部隊
<p>軍令陸甲第九号により編成下令。 騎兵第三旅団砲兵隊の復帰により、これを基幹として在満各部隊よりの転属者をもつて、東安省西東安において第一二六師団砲兵隊の編成完結。 移駐のため、西東安出発。 東安省、鶏寧県適道着。同地付近の警備。 軍令陸甲第一〇六号により第一四国境守備隊、迫撃砲第一二大隊よりの転入者を併せ第一二六師団砲兵隊を野砲兵第二二六連隊に編成改正。 一部を適道に残置し、連隊長以下主力は適道より大礮山陣地に移駐。 主力の行動 日「ソ」開戦により掖河に転進。 掖河陣地到着。 「ソ」軍と交戦。 掖河陣地撤退。 横道河子到着。</p>											摘要

2274

昭 20												
9	9	9	8	8	8	8	8	8	9	9	9	8
30	7	2	23	18	16	14	12	10	24	13	4	18
<p>横道河子において武装解除。</p> <p>海林第一三四作業大隊に編入。</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>「ウオロシロフ」収入所。</p> <p>適道残留隊の行動</p> <p>連隊主力に追及のため、適道を出発。</p> <p>東安省麻山において「ソ」軍戦車と交戦し、林口に後退。</p> <p>林口より七星駅南方において交戦。</p> <p>林口街道において「ソ」軍戦車と交戦し、多数の生死不明者を出した。</p> <p>二道河子山中を経て横道河子に向かう。</p> <p>横道河子において武装解除。</p> <p>拉古第一九作業大隊に編入。</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>「ウオロシロフ」収入所。</p> <p>連隊長</p> <p>少佐 木庭 一之</p>												

								昭 20	年
9	9	8	8	8	8	6	3	1	月
13	4	18	15	10	9		10	16	日
<p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>海林第一三四作業大隊に編入。</p> <p>横道河子において武装解除。</p> <p>その間、部隊と別行動したものが多数あつた。</p> <p>掖河着。引続き横道河子に後退。</p> <p>相当の損害があつた。</p> <p>「ソ」軍機の爆撃により作業を中止し掖河に転進。途中「ソ」軍の攻撃をうけ</p> <p>日「ソ」開戦となり、八面通残留隊は主力に合流。</p> <p>業。</p> <p>一部を八面通に残置し、主力は穆稷県自興屯に移駐。同地において陣地構築作</p> <p>業。</p> <p>現地召集者をもつて牡丹江省八面通において編成完結。</p> <p>第三国境守備隊、第一二国境守備隊、工兵第二五連隊を基幹として、在満各部隊</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令。</p>								<p>才一六師団工兵隊略歴</p> <p>通称号 満第八三部隊 英断第一五二五五部隊</p> <p>略 歴</p>	
								摘要	

2276

	9
	18
	「ウオロシロフ」収入所。 隊長 少佐 高野光衛

昭 20										年 月 日	才 一 二 六 師 団 通 信 隊 略 歴	
9 9 9 8 8 8 8 6 3 1												
24 13 10 18 16 13 9 6 10 16												
<p>軍令陸甲第九号により編成下令。 第二五師団通信隊等転用部隊の残置者、及び在満各部隊よりの転属者を基幹として東安省鶏寧県平陽において編成完結。 一部を平陽に残置し主力は平陽より牡丹江省穆稜県自興屯に移駐。 爾後八面通、自興屯にて陣地構築。 日「ソ」開戦により、牡丹江省仙洞に後退。同地において平陽残留隊と合流。 掖河において「ソ」軍と戦闘。 牡丹江西南地区に集結。海林を経て横道河子に到着。 横道河子において武装解除。 主力は海林第一三五作業大隊に編入。 綏芬河經由入「ソ」。 「タイシエント」収に入所。</p>											略	歴
<p>隊長 中隊長 岡義信</p>											摘 要	

昭 20											年	才一六師團輜重隊略歴			
至 自													月		
9	9	9	8	8	8	8	8	8	4	3				1	日
24	13	10	18	16	15	13	12	9			10	16	略	歴	摘要
<p>「ソ」軍戦車部隊および飛行機の攻撃をうけ、生死不明者を出した。</p> <p>掖河より横道河子に後退、同地において平陽残留隊と合流。</p> <p>横道河子において武装解除。</p> <p>主力は海林第一三五作業大隊に編入。</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>「タイシエツト」収に入所。</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令。</p> <p>独立輜重兵第六四中隊およびその他朝鮮転用の各部隊の残置者を基幹として、東安省斐徳において編成完結。</p> <p>一部を斐徳に残置し主力は東安省鶏寧県平陽に移駐。</p> <p>爾後牡丹江省穆稜県自興屯、寧安県仙洞の中間に位置し、輸送業務に従事。</p> <p>主力は、自興屯より掖河陣地に移動。</p> <p>掖河陣地に到着。</p>															

一部は九月二日拉古第一九作業大隊に編入。
九月七日緩芬河經由入「ソ」。

隊長

少佐 山森正治

									昭 20	年	才 一 二 六 師 団 兵 器 勤 務 隊 略 歴
									5	月	
10	10	9	8	8	8	8	8	6	1	日	
<p>「タイシエツト」に入所。 綏芬河經由「ソ」。 海林第一三二作業大隊に編入。 横道河子において武装解除。 寧安泉横道河子に転進。 牡丹江着。 八面通を出発。仙洞樺林を経て牡丹江に向かう。 日「ソ」開戦と同時に、平陽残留隊は八面通の主力に合流。 爾後同地において陣地構築作業。 一部を平陽に残置し、主力は牡丹江省穆稜県八面通に移駐。 完結。</p>									6	略	
									1	歴	摘要

370の2

隊長

大尉

太

田

今

朝

次

郎

2282

昭 20										年 月 日	才一二六師団病馬廠略歴	
10	10	9	8	8	8	7	6	3	1			
19	11	9	19	15	9	15	6	10	16	日	通称号 満第九三部隊 英断第一五二五八部隊	
<p>軍令陸甲第九号により編成下令。 輜重兵第二五連隊等転用部隊の残置者、その他在満各部隊からの転属者を基幹として東安省林口において編成完結。 一部を林口に残置し、主力は牡丹江省穆稜県自興屯に移駐。 自興屯より柞木南屯に移駐。 日「ソ」開戦により主力は柞木南屯から、寧安県掖河、拉古を経て転進、林口 残留隊は、牡丹江省寧安県七星、仙洞、樺林を経て転進。 横道河子において合流。 横道河子において武装解除。 海林第一三二作業大隊に編入。 綏芬河經由入「ソ」。 「タイシエット」収に入所。</p>											略	歴
<p>廠長 獸大尉 小岩井重夫</p>											摘要	

昭 20	年	第一三五師団司令部略歴	
7	月	通称号	略
10	日	満第三九三部隊 真心第二一〇五一部隊 真心第二五二五二部隊	歴
7	7	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。	<p>独立混成第七七旅団司令部（東安師団と仮称）の復帰完結によりこれを基幹要員として東安省東安において編成完結。</p> <p>東安省東安に駐屯し一部を七星に派遣し陣地構築作業。</p> <p>東安を出発主力は勃利、林口、樺林と転進。</p> <p>主力は樺林駅付近において相当の損害を受けた。</p> <p>掖河、牡丹江より横道河子に後退し武装解除。</p> <p>拉古にて作業第一大隊に編入し綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>「ウオロシロフ」地区「ロカシエフカ」收容所に入所。</p>
8	8		
8	31		
9	3		
10	20		
		師団長 中将 人見与市	摘要

2284

昭 20						年	第一三五師団司令部防疫給水班略歴	通称号 真心第二五二六七部隊
8	9	9	8	8	8	月		
10	3	1	30	18	13	日		
<p>独立混成第七七旅団司令部の防疫給水班の復帰により下士官兵等は他に転属し、軍属の一部をもつて第一三五師団司令部の防疫給水班を編成。開戦となる。同日東安出發し勃利、林口を経て牡丹江に向う。</p> <p>樺林においてソ軍の襲撃をうけ四散し主力は横道河子に後退。</p> <p>横道河子において武装解除。</p> <p>拉古作業第一大隊に編入。</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>「ロカシヨウフカ」収に入所。</p>								
<p>班长 軍医大尉 斉藤 精一郎</p>								
摘要								

2285

至自		昭	年 月 日	略 歴	摘要		
9	9	8				7	7
20	17	24				20	10
<p>連隊長 大佐 飯塚文治</p> <p>「イルクーツク」収に入所。</p> <p>主力は海林第一三六大隊に編入し綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>林口において武装解除。</p> <p>も多数の生死不明者をだした。</p> <p>大七站東方紅葉峠においては甚大な損害を受け更に牡丹江ガード付近において</p> <p>各駐とん地毎に戦闘を交えつゝ、勃利を経て牡丹江方面に後退途中。八月十五日</p> <p>任じ、大部分は七星の陣地構築作業に出動し、虎林には一部の人員が残留。</p> <p>第二大隊は宝清に駐屯。</p> <p>本部第一、第三大隊は虎林に駐屯。</p> <p>（東安師団と仮称）を基幹要員として東安省虎林県虎林において編成完結。</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。</p> <p>独立混成第七七旅団の復帰により独立歩兵第五六八、五六九、五七〇の各大隊</p>							

歩兵第三六八連隊略歴

通称号

滿第八一三部隊

真心第二一〇五二部隊

真心第二五二五三部隊

略

歴

摘要

2286

昭和		年月日	略歴	摘要
年	月			
20	7	7	<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 独立混成第七七旅団の復帰により独立歩兵第五七一、五七二、五六八の各大隊（東安師団と仮称）を基幹要員として東安省東安において編成完結。 本部第一、第三大隊は東安に駐とん。 第二大隊は唐岑に駐とん。 一部を国境方面に派遣し直接国境監視にあて、主力を七星に派遣し陣地構築を実施。 開戦と同時に国境監視隊は「ソ」軍の攻撃をうけ相当多数の戦死、生死不明者をだした。 主力は虎林に後退し林口方面に転進。 林口において武装解除。 連隊本部とともに東安に残留した各中隊は勃利、二道河子を経て冷山において武装解除。 その他、横道河子、東京城等においても武装を解除された。</p>	
9	8	8		
6	24	9		

歩兵第三六九連隊略歴

通称号

満第八〇七部隊

真心第二一〇五三部隊

真心第二五二五四部隊

略

歴

摘要

2287

	10	10
	8	1
連隊長 大佐 中山 亮 輔	主力は海林第一四七作業大隊に編入し綏芬河經由入「ソ」。 「イスベスト」地区「ウオロシロフ」地区に入所。	

昭和		年	月	日	略	歴	摘要
7	7						
7	7	7	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。		
7	7	7	7	20	第二国境守備隊の復帰により（東安師団と仮称）東安省林口県林口において編成完結。		
8	8	8	8	初	主力は東安省楚山に移駐、一部を七星に派遣して陣地構築。		
8	8	8	8	9	開戦と同時に主力は愛河に転進途中樺林、掖河において戦闘し部隊は四散した。		
8	8	8	8	17	横道河子において武装解除。		
9	9	9	9	1	拉古にて第一、第二作業大隊に編入し綏芬河經由入「ソ」。		
9	9	9	9	1	「ウオロンロフ」収に入所。		
<p>連隊長 中佐 多喜 弘</p>							

歩兵第三七〇連隊略歴

通称号 満第三一二部隊
真心第二一〇五四部隊 真心第二五二五五部隊

第一三五師団挺進大隊略歴										
通称号 真心第二一〇九六部隊 真心第二五二五六部隊										
昭	20	年	月	日	略歴					
	7	7	7	10	7	7	8	8	8	9
	10	20	30	10	11	12	15	17	1	
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。</p> <p>林口突撃隊と仮称。</p> <p>東安省林口県林口において林口突撃隊を改編し編成完結。</p> <p>日「ソ」開戦により主力は林口出発、七星障地に入る。</p> <p>一部は林口周辺に残置。</p> <p>掖河に転進。</p> <p>一部を樺林東方に配置、本部は愛河北方に位置し戦闘準備中軍命令により四道嶺に転進。</p> <p>牡丹江方面に転進中部隊は四散。</p> <p>主力は横道河子において武装解除。</p> <p>主力は拉古において第二作業大隊に編入し綏芬河經由入「ソ」(「ウオロシロフ」 「セミヨノフカ」入所)</p> <p>隊長 少佐 田川 義之</p>										
										摘要

2290

昭和		20		年	
9 9 8 8		7 7		月	
8 8 10 9		20 10		日	
<p>野砲兵第一三五連隊略歴</p> <p>通称号 満第六三六部隊 真心第二一〇五五部隊 真心第二五二五八部隊</p> <p>略 歴</p>					
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。</p> <p>独立混成第七七旅団砲兵隊（東安師団と仮称）を基幹とし、第二国境守備隊、第一一国境守備隊その他在満部隊の転属者によつて、東安省西東安において編成完結。</p> <p>主力は牡丹江省七星に移動、一部は西東安に残留し陣地構築。</p> <p>並 東安残留隊は主力に合流のため同地出發。</p> <p>一部七星着その他の者は勃利街道を亜河を経て横道河子に到着後分散。</p> <p>残留隊の主力は寧安において武装解除。</p> <p>主力の七星部隊は七星より掖河を経て横道河子において武装解除。</p> <p>連隊本部は別行動となり九月十二日敦化において武装解除。</p> <p>拉古第二作業大隊に編入、綏芬河經由入「ソ」(「ウオロシロフ」地区に入所)</p>					
<p>連隊長</p> <p>少佐 江藤寛治</p>					
摘要					

至自	至自	昭 20	年月日
9 8 9 8	8 8 8 8	7 7	
2 30 1 18	15 14 12 9	20 10	
<p style="text-align: right; margin-right: 20px;">工兵第一三五連隊略歴</p> <p>通称号 満第八一九部隊 真心第二一〇五六部隊 真心第二五二五九部隊</p> <p style="text-align: center;">略 歴</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 独立混成第七七旅団工兵隊（東安師団と仮称）および第二国境守備隊工兵隊の復帰によりこれを基幹人員として東安省東安において編成完結。 各中隊の主力を七星に派遣し弾地構築作業。 開戦とともに東安残留隊は、七星の派遣隊に合流するため同地出発。 黒台を経て鶏寧に向かう間落伍分離者続出、林口、七星付近は既に「ソ」軍進出のため横道河子方面に転進し八月十四日ごろ二道河付近で七星派遣隊に合流。 七星の派遣隊の主力は開戦とともに掖河陣地に配備。 掖河陣地において交戦、十五日夜陣地を撤退して牡丹江、拉古、海林を経て横道河子に転進。 主力は横道河子において武装解除。 拉古第三作業大隊に編入綏芬河經由入「ソ」。 分離群は横道河子において武装解除後同地で作業大隊に編入し入「ソ」。</p>			
摘要			

2292

9

12

連隊長以下約五十名は武装解除を受けず、吉林方面に南下、沖河付近に進出、更に蛟河より通化省に南下行動中十月十二日老金廠北方付近にて現地保安隊の攻撃をうけ分散状態となった。
一部は新京において武装解除。

連隊長

少佐 米村 義幸

第一三五師団通信隊略歴										
通称号 満第二二八部隊 真心第二一〇五七部隊 真心第二五二六〇部隊										
略歴										
昭	20	年	月	日						略
7	7									軍令陸甲第一〇六号により編成下令。
7	10									独立混成第七七旅団通信隊（東安師団と仮称）の復帰によりこれを基幹として 東安省東安において編成完結。
8	8									陣地構築、通信網構成のため、虎林、饒河、綏完子に各一小隊移駐。 一部は七星に派遣し陣地構築作業。
8	10									東安主力は七星に向かつて出発。
8	14									途中重河において交戦。
8	17									横道河子着。
8	20									同地において武装解除。
9	7									東安の一部は主力と別れ冷山において武装解除。
9	12									海林作業第一四三大隊編入。
10	25									綏芬河經由「ソ」。
11	9									「イスベストコーワヤ」収に入所。
摘要										

2234

		9	9	8	8
		3	1	21	18
					9
					7 星 派 遣 隊
					掖河陣地に向かつて七星出発。
					横道河子において武装解除。
					拉古作業第一大隊に編入。
					綏芬河経由入「ソ」。
					「ウオロシロフ」収入所
					隊長
					大尉 伊藤 虎之助

昭		年		月		日		略	歴	摘要
7	7	7	7	8	8	9	9			
7	7	7	7	8	8	9	9	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 独立混成第七七旅団輜重隊（東安師団と仮称）の復帰により、これを基幹として東安省東安において編成完結。 東安省東安に駐とん一部を牡丹江省七星付近に派遣し、陣地構築および材料の輸送。 東安部隊		
8	8	8	8	9	9	10	10	七星に向かい東安出發。 途中「ソ」軍機の爆撃により部隊は小行動群となり冷山に向かった。 横道河子で武装解除。 拉古第三作業大隊に編入、同日綏芬經由入「ソ」。 「イマン」収入所。 七星付近の派遣隊		
8	8	8	8	9	9	10	10	七星付近を出発し樺林付近から山中に入る。 横道河子着、同日武装解除。		

輜重兵第一三五連隊略歴

通称号

溝第八二〇部隊
第二一〇五八部隊

真心第二五二六一部隊

略

歴

摘要

2296

	9	9	8
	10	1	19
連隊長 少佐 築出松夫	拉古第三作業大隊に編入、同日緩芬河經由入「ソ」。 「イマン」収入所。		
			拉古着。

2297

昭和		略		略		略	
年	月	日	略	略	略	略	略
20	7	7	7	8	8	8	8
	10	20	12	30	14	9	10
軍令陸甲第一〇六号により編成下令。		独立混成第七七旅団の輜重、工兵、砲兵の各部隊（東安師団と仮称）よりの転属者をもつて東安省東安において編成完結。		同地で兵器、自動車の整備及修理に従事。		開戦にともない牡丹江に移動開始。	
途中鶏寧において、満軍の叛乱に会い多数の戦死、生存不明者をだした。		主として横道河子において武装解除。		拉古第二一作業大隊に編入。		綏芬河経由入「ソ」。	
「ウオロシロフ」収入所。		隊長		大尉 多田喜一			
		摘要					

2298

第一三五師団病馬廠略歴											
通称号 真心第三七二一〇部隊 真心第二五二六六部隊											
昭	年	月	日	略歴							摘要
20	7	7	10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。							
		7	20	独立混成第七七旅団輜重隊および独立歩兵第五六九、第五七一、両大隊よりの 転属者により東安省東安において編成完結。							
		8	1	東安の元関東軍防疫廠跡に移駐。							
		8	10	東安出發、勃利街道を林口に向い転進。							
		8	14	勃利着、更に林口に向う途中「ソ」軍の攻撃をうけ亞河より山中に入り部隊は 四散。							
		8	15	横道河子付近にて合流したが約半数は不明。							
		9	1	横道河子を出発。							
		9	6	冷山着。							
		10	中旬	蛟河県背背着。							
		11	8	吉林省樺甸県樺甸付近にて武装解除し解散。							
				廠長 獸大尉 坂井与三吉							

2299

												昭 20	年 月 日	独立速射砲才三一大隊略歴		
10	9	8	8	8	8	8	8	8	6	4	3	1			略	歴
12	9	19	18	17	15	14	10	9	20	5	20	16				
<p>軍令陸甲第九号により編成下令。 第一一師団よりの要員を基幹として、東安省虎林県宝東において編成完結。 鶏寧県平陽に移駐。 一部を平陽に残置し、主力は牡丹江省穆稜県自興屯において陣地構築。 日「ソ」開戦、陣地において空爆をうけ、戦闘状態に入る。 少数人員を残置し、主力は自興屯を出発。 四道嶺付近において対戦車戦闘により損害を受く。 同地を後退。平陽、自興屯の残置者も主力と合流。 牡丹江を経て牡丹江省寧安県、横道河子着。 停戦 横道河子において武装解除。 海林第一三三作業大隊に編入。 綏芬河經由入「ソ」。</p>														通称号 満第五一部隊 城第二一〇七六部隊		
												摘要				

2300

昭		昭		昭		年	野 戦 重 砲 兵 才 二 〇 連 隊 略 歴
20		16		14			
至	自	9	8	7	6	8	通 称 号 満 第 九 三 八 部 隊 城 第 二 一 〇 九 九 部 隊
		8	8	7	6	8	
日	日	3	19	16	12	9	略 歴
		8	3	19	16	8	
						野戦重砲兵第一連隊、同第九連隊、阿城重砲兵連隊等よりの要員を基幹として 浜江省、哈爾濱において編成完結。 東安省密山県斐徳に移駐。爾後同地において周辺の警備。 臨時編成（甲）下令。 斐徳において編成完結。爾後同地において国境警備。 一部を斐徳に残置し、主力は陣地構築のため、牡丹江省穆稜に移駐。 一部を牡丹江省七星に派遣。陣地構築。 日「ソ」開戦。 穆稜陣地、小豆山（一国山）にて「ソ」軍と交戦。七星派遣隊は八月十一日、 同地を出発磨刀石より穆稜に向かい主力と合流。 小豆山（一国山）にて部隊長以下多数の戦死、生死不明者をだし、分散して牡 丹江方面に後退。 牡丹江省掖河において武装解除。 主力は拉古第一作業大隊に編入。	
						摘 要	

						昭 20			
			9	9	9	8	9	9	
			17	12	2	20	11	9	
			<p>同地を出発。 綏芬河經由入「ソ」</p> <p>斐徳残留隊</p> <p>部隊長命令により斐徳出発。主力に追及すべく三江省勃利から牡丹江方面に向かう。</p> <p>牡丹江省寧安県樺林において「ソ」軍の攻撃をうけ四散。</p> <p>横道河子より一面波にいたり、同地において武装解除。</p> <p>拉古第一九作業大隊に編入。</p> <p>同地を出発。</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p>						
			<p>連隊長</p> <p>大佐 松村 精</p>						

昭和		昭和		昭和		昭和		昭和		昭和		年	月	日	略	歴	摘	要
至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自							
9	9	9	9	8	8	8	7	6	6	8	7							
15	5	3	1	30	11	9	末	末	1	1	16							
<p>独立重砲兵才五大隊略歴</p> <p>通称号 満第九部隊 城第一二一九部隊</p> <p>臨時編成(甲)下令。 阿城重砲兵連隊よりの要員を基幹として浜江省阿城において編成完結。 爾後同地において周辺の警備。 一部を阿城に残置し、牡丹江省寧安県東京城に移駐。 爾後同地において陣地構築。 主力は東京城出發。鏡泊湖付近(東大泡、西大泡付近)に陣地構築。 一部を東安省虎頭付近(ウスリー江岸)の最前線の監視哨工事に派遣。 日「ソ」開戦。 軍命令により主力は陣地出發。東大泡に集結し、南湖頭方面に向かう。 寧安県南湖頭着。 北湖頭において武装解除。 東京城第二六七作業大隊に編入。 同地出發。 綏芬河經由入「ソ」。</p>																		

昭 20						昭 20				
11	10	9	8	8	6	11	10	9	8	8
12	4	7	20	9	1	22	中旬	20	16	10
<p>虎頭付近の監視哨 撤退の命をうけ東安に後退。 東安着直前「ソ」軍の包囲をうけ多数の戦死傷者をだした。 牡丹江省道林において、停戦を知り武装解除。 海林第一四八作業大隊に編入。同日同地出発。 綏芬河經由入「ソ」。 阿城残留隊 阿城周辺の警備。 開戦と同時に陣地確保。 阿城―海林間において武装解除。 海林第一二八作業大隊に編入。 同地出発。 綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>隊長 少佐 大崎 義章</p>										

昭和											昭	年	月	日	独立重砲兵才八大隊略歴	通称号 城第一〇二二部隊
20											16					
9	9	8	8	6	5	8	8	8	8	7	7					
10	2	25	9	1	4	12	10	7	2	22	16	臨時編成(甲)下令。 横須賀東部第七五部隊(横須賀重砲兵連隊)よりの要員を基幹として横須賀において編成完結。 大阪港出帆。 大連上陸。 関東州界通過。 阿城着。第五軍司令官の隷下に入る。 同日より同地において陣地構築。 一部を阿城に残置し、主力は牡丹江省寧安県京城方面に陣地構築のため移動。 第一二二師団長の指揮下に入り、主力をもつて寧安県鏡泊湖畔に陣地構築。 日「ソ」開戦。 京城方面に転進。 戦闘することなく寧安県南湖頭東大泡において武装解除。以後蘭崗に移動。 蘭崗第二八四、第二八五作業大隊に編入。同日出発。	摘要			

2306

						昭 20
					11 10 9 8 8	10
					12 4 7 23 9	25
					隊長	
					中佐	
					林 太郎	

綏芬河經由入「ソ」。
 阿城残留隊
 阿城地区警備司令官の指揮を受け、同地および哈爾浜周辺の警備。
 阿城において武装解除。
 海林第一二八作業大隊に編入。
 同地出発。
 綏芬河經由入「ソ」。

隊長
 中佐
 林 太郎

至 自			至 自			昭 20	昭 17	昭 16	年
9	8	8	8	8	8	6	2	10	月
10	17	16	15	11	9	初	10	1	日
<p>独立重砲兵才一中隊略歴</p> <p>通称号 城第一二六一部隊</p> <p>略 歴</p> <p>軍令陸甲第六〇号により編成下令。</p> <p>阿城重砲兵連隊、重砲兵第二連隊等在滿各重砲兵連隊よりの要員を基幹として、牡丹江省穆稜県穆稜において編成完結。</p> <p>東安省虎林県虎林に移駐。爾後同地において国境の警備および訓練に従事。</p> <p>牡丹江省穆稜に移駐。第一二四師団長の指揮下に入り、主力は小豆山において陣地構築。</p> <p>日「ソ」開戦と同時に、穆稜の残留者および兵器全部を小豆山陣地に移動。全員合流す。</p> <p>同陣地において砲戦開始され、彼我ともに損害多大で隊長、幹部以下多数の戦死傷者をだした。</p> <p>少数人員ごとに分散し、牡丹江方面に後退。</p> <p>蘭崗、沙河沿、掖河、明月溝などにおいてそれぞれ武装解除。</p> <p>敦化、海林、拉古、蘭崗の各地において作業大隊に編入。入「ソ」。</p>									
摘要									

				昭 昭		昭		年	月	日	略	歴	摘	要	
				20	19	17									
8	8	8	8	7	9	6	6	4							
31	28	12	9	10	10	20	18	25							
<p>迫撃砲才一三大隊略歴</p> <p>通称号 城第三一〇七部隊</p> <p>龍江省齊々哈爾において歩兵第三連隊、同第三〇連隊及び第一三〇連隊の要員を基幹として編成完結。</p> <p>同日より同地区の警備。</p> <p>移駐のため齊々哈爾出發。</p> <p>東安省虎林着。</p> <p>同日より国境警備。</p> <p>牡丹江省寧安県興凱湖畔に移動。虎林一興凱湖畔の国境警備。</p> <p>一部を虎林に、一部を掖河に残置し主力は牡丹江省穆稜に移動。</p> <p>第一二四師団と共に陣地構築作業。</p> <p>掖河残留隊は、虎林一穆稜陣地の中継点となり輸送、連絡に従事。</p> <p>軍命令により第一二四師団長の指揮下にあつて戦闘に参加。</p> <p>主力は小豆山に転進。寧安に向かう。</p> <p>寧安より東京城に向かい行動中、「ソ」軍戦車の攻撃をうけ四散。</p> <p>石頭において武装解除。</p>															

2310

昭		自		至	
9	9	9	9	8	9
20	1	20	10	5	9
<p>蘭岡第二七七作業大隊に編入。 綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>虎林、掖河残留隊 主力に追及すべく虎林を出発。途中掖河残留隊と合流。 拉古第一八作業大隊に編入。 一部は拉古第一七作業大隊に編入。 綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>大隊長 大尉 広田武男</p>					